

## 地域保健からの乳幼児健診のあり方に関する検討

研究協力者 平野かよ子（長崎県立大学）  
中板 育美（日本看護協会）  
阿部礼以亜（全国保健師長会）  
神庭 純子（全国保健師教育機関協議会）  
嶋津多恵子（日本公衆衛生看護学会）  
藤原 千秋（日本保健師活動研究会）  
研究代表者 山崎 嘉久（あいち小児保健医療総合センター）

### 研究要旨

地域保健において保健師が乳幼児健康診査（以下、「乳幼児健診」とする。）にどのような意義や目的を設定しているかを明らかにするために、平成 27 年度に全国保健師長会が行った「乳幼児健康診査における必須問診項目の追加に伴う自治体の取り組み状況に関するアンケート調査」において「検討中」と回答した自治体の自由意見の内容の分析と平成 28 年度日本保健師連絡協議会の活動報告会で行われた乳幼児健康診査のあり方に関する意見交換の記録を参考として論議し、保健師の考える乳幼児健康診査のあり方を整理した。

### A. 研究目的

地域保健において、保健師が乳幼児健康診査（以下、「乳幼児健診」とする。）にどのような意義や目的を設定しているかを明らかにする。

### B. 研究方法

平成 27 年度に全国保健師長会が実施した乳幼児健診に虐待していると思う親の割合に係る問診項目の取組状況等に係る調査の自由回答と、平成 28 年の日本保健師連絡協議会の活動報告会への参加者による乳幼児健診に関する話し合いの記録を参考として研究協力者で論議し、地域保健を担う保健師の乳幼児健康診査の意義と目的の考え方を整理した。

（倫理面への配慮）

自由回答及び話し合いは匿名で記録されたものであるが、本研究の研究対象とすることの同意を得たものではないことから、保健師の乳

幼児健康診査の意義と目的の考え方を論議する際の参考として用いた。

### C. 研究結果及び論議に基づく整理内容

平成 27 年度全国保健師長会「乳幼児健康診査における必須問診項目の追加に伴う自治体の取り組み状況に関するアンケート調査結果は以下のように実施されたものである。

調査方法：全国保健師長会の会員が所属する都道府県および市区町村に対し、メールによる自記式調査を実施したものである。主な調査内容は、「児童虐待項目（指標 14）の実施状況」「実施後の保護者の反応」「実施側の課題」等とし、調査期間は平成 27 年 10 月 10 日～26 日までの 16 日間であった。

回答状況：回答は 31 都道府県および 448 市区町村（全国市区町村の 25.7%）から得られ、児童虐待項目を反映した問診内容の改定状況

は、実施済 289(64.5%)、改定予定 110(24.6%)、検討中 49(10.9%)であった。

本研究ではこの調査結果の問診内容の改定を「検討中」と回答し自由意見欄に記載されていた内容を参考とした。

もう一つ参考した記録は、平成 29 年 3 月 4 日(土)に実施された平成 28 年度日本保健師連絡協議会活動報告・集会におけるグループディスカッションである。

グループディスカッションのテーマは、母子保健における虐待予防の基軸～寄り添う支援としての健康診査～乳幼児健診の問診のあり方と健やか親子の評価指標について考えるであった。

グループディスカッションは、市町村、都道府県、教育機関、産業保健、その他に分かれて意見交換を行い、話し合いのテーマは 1) これまでの虐待予防への取り組みと問診項目についてと、2) 今からどうしたら良いと思うかであった。参加者数は：180 名(市町村保健師、都道府県保健師、産業保健師、教育機関教員等)で、グループで話し合った内容のメモである。

グループディスカッションの記録を基に、保健師が考える乳幼児健診の意義・目的を論議し、以下のような整理を行った。

- ・子育て期にある地域住民と顔の見えるかたちで信頼関係を築き、家族としての成長を支援し、家族としての成長を見守る。
- ・正常を確認し、正常を支持し、育ちを支える場であり、単に異常の発見が目的ではない。
- ・健診において問診は個別に行うが、保健師は他の親子の様子も視野に入れ総合的に判断し、親にわが子の成長や特徴を集団の中でとらえる機会となることを意図している。
- ・異常の早期発見と早期支援(発見が目的ではなく支援のため)のためには、保健師が多くの

正常を知ることによって正常から離れているものに気付く。それが異常であるかを判断するためには、親子とつながり続け、正常の中の異常、異常の中の正常 強みを見いだし支援し成長を促すことが重要と考えている。

・親が自分の育児について評価され審判される場が健診ととらえられることがないように、個々の親に合わせ慎重に対応することを意図している。

・健診の場で事実を確認するとともに、その要因を大切にするために生活環境、生活背景を知り支援する場としようとしている。

・乳幼児健診で発見される身体的な問題は湿疹(アトピー)等で新たに発見される医学的な問題は少ない。

## D. 結論

今後、保健師が健診にどのような目的を持たせて行っているかについて明らかにすることを目的とした調査を改めて行い、地域保健を担う保健師の健診の考え方を検証する予定である。

さらに、地域保健における健診の意義は、地域住民の健康増進と予防が目的であり、単に乳幼児期の健診に着目するだけではなく、その後続く学齢期の健康診査(あるいはその後の健診)へつなげていくものとして設定されることが重要である。

次年度はその視点をも加味して保健師が考える健診の意義・目的を明らかにする調査を実施し、乳幼児健診のあり方とともに問診項目、健診項目をどのように設定し、その後の健診へつなげる乳幼児期の健診のあり方を明らかにする所存である。

## 【参考文献】

- 1) 山崎 嘉久：「健やか親子 21(第 2 次)」に

における乳幼児健診の意義. 日本小児科医会会報.  
2016 : 52 : 143-145

2) 山崎 嘉久 : 「標準的な乳幼児期の健康診査  
と保健指導に関する手引き」について. 小児保  
健研究. 2016 : 75 (4) : 432-438

3) 山崎 嘉久 : <乳幼児健診実施上のポイント  
>子育て支援、虐待予防としての健診の役割.  
小児内科. 2013 : 45(3) : 510-514

4) 山崎 嘉久 : 知っておきたい知識 乳幼児健  
診の意義 発達支援と子育て支援そして虐待  
予防へ. 小児看護. 2013 : 36(3) : 300-307

5) 浜崎 優子, 平田 和子, 寺本 恵光, 松田  
光枝 : 3~4 ヶ月児をもつ母親の乳児健診にお  
ける主訴の分析 母親のニーズに沿った保健  
指導の検討. 保健師ジャーナル. 2010 : 66(1) :  
44-52

6) 都筑 千景, 村嶋 幸代 : 1 歳 6 ヶ月児健康  
診査の実施内容と保健師の関わり. 日本公衆衛  
生雑誌. 2009 : 56(2) : 111-120

7) 鈴木 とも子, 安齋 由貴子 : 1 歳 6 ヶ月児健  
康診査における保健師の情報収集・判断の方法  
について. 保健師ジャーナル. 2005 : 61(12) :  
1204-1209

## **F. 研究発表**

### **1. 論文発表**

なし

### **2. 学会発表**

なし

## **G. 知的財産権の出願・登録状況**

なし